

中野 正剛（なかの せいごう、**1886年**（**明治**19年）**2月12日** - **1943年**（**昭和**18年）**10月27日**）は昭和期の**ジャーナリスト**、**右翼団体****東方会**総裁、**衆議院議員**。号は耕堂。

経歴

生い立ち・学生時代

旧**福岡藩**士中野泰次郎と母トラの長男として、**福岡県福岡市**西湊町（現・**中央区**荒戸）の伯父中野和四郎宅で生まれる。幼名は甚太郎。中野家は代々福岡藩の御方であり、父泰次郎の代に分家し福岡市西町（現・中央区今川）で質屋を家業としていた。母トラは福岡県**糸島郡**元岡村（現・福岡市**西区**元岡）で醤油醸造業を営む**黨又九郎**の長女。

福岡県中学修猷館（現・**福岡県立修猷館高等学校**）に進学し、在学中の**1903年**（明治36年）に自ら正剛と改名する。**1905年**（明治38年）修猷館を卒業後**早稲田大学**政治経済学科に進学し、家族と一緒に上京している。

修猷館で**緒方竹虎**と出会い、以後、早稲田大学・東京朝日新聞社でも行動を共にした。大学時代、下宿を一緒にしていた時期もあった。

学費や生活費を稼ぐために**三宅雪嶺**の『**日本及日本人**』に寄稿した。そして、このことが縁となって**玄洋社**を主宰する**頭山満**と知り合う。頭山満の玄洋社思想と大連で活躍する金子雪斎（アジアのための青年育成を心がけていた）のアジア思想は中野を支えて行く事になる。

ジャーナリストとしての活躍

1909年（明治42年）早大を卒業し、同級生だった**風見章**とともに、東京日日新聞（現・**毎日新聞**）を発行していた日報社に入社し、次いで**朝日新聞**に入社する。朝日新聞には、「**戎蛮馬**」のペンネームで「朝野の政治家」「明治民権史論」などの政治評論を連載し、政治ジャーナリストとして高い評価を得た。

この間、**1913年**（**大正**2年）に三宅雪嶺の娘多美子と結婚している。仲人は、頭山満と**古島一雄**であった。

1916年（大正5年）に朝日新聞を退職し、**東方時論**社に移って社長兼主筆に就任。

政界進出

東方時論社に移った翌年の**1917年**、衆議院議員**総選挙**に立候補するも、落選。

しかし、日本外交を批判的に論考した『講和会議を目撃して』がベストセラーとなり、勢いをつけ、**1920年**の総選挙で当選する。以後、8回当選。当初は**無所属倶楽部**を結成するが、**1922年**に**革新倶楽部**結成に動く。その後も**憲政会**・**立憲民政党**と政党を渡り歩いた。

民政党時代は、党遊説部長として、**永井柳太郎**と臨時軍事費問題や**張作霖**暗殺事件を**田中義一**内閣に迫り、反軍派政党人として名を馳せた。また、政府では、内務大臣だった**濱口雄幸**の推薦で、**三木武吉**の後任の**大蔵**参与官や**逋信**政務次官などを歴任した。

ドイツ、イタリアへの訪問

挙国一致内閣を提唱していた親軍派の**安達謙蔵**と民政党を脱党、**国民同盟**を結成。さらに昭和11年（**1936年**）には、**東方会**を結成し自ら総裁となった。

1937年から**1938年**にかけて、**イタリア**、**ドイツ**両国を訪問し、**ムッソリーニ**、**ヒトラー**と会見、国際政治の動向について話し合う。

1939年には、**議会政治**否定・政党解消を主張し、衆議院議員を辞職する。**南進論**・**日独伊三国同盟**を支持し、**撃米東亜民族会議**を主催した。

1940年、**大政翼賛会**総務に就任。**1941年**に**太平洋戦争**開戦時、**東方会**本部で万歳三唱するが長期化する戦局に懸念を抱くようになる。

東條英機への反発

しかし、**東條英機**首相が独裁色を強めるとこれに反発。**1942年**に大政翼賛会を権力強化に反対するために脱会している。同年の**翼賛選挙**に際しても、自ら非推薦候補を選び、東条首相に反抗した。東方会は候補者46人中、中野のほか、**本領信治郎**（早大教授）、**三田村武夫**たち7人だけであった。それでも**翼賛政治会**に入ることを頑強に拒み、最終的には**星野直樹**の説得でようやく政治会に入ることを了承した。

そして、同年**11月10日**、**早稲田大学大隈講堂**において、「天下一人を以て興る」という演題で二時間半にわたり東條英機を弾劾する大演説を行った。**Template:quotation?** この正剛の呼びかけに、学生たちは起立して校歌「都の西北」を合唱してこたえた。当時、**早稲田大学第一高等学院**の学生であった**竹下登**は、この演説を聴いて感動し政治家の道を志している。

中野の反東條の動きは止まず、**1943年**正月、朝日新聞紙上に「戦時宰相論」を発表し、名指しこそしなかったものの、「難局日本の名宰相は、絶対強くなければならぬ」と東条内閣を痛烈に批判した。この記事の内容に東條は激怒し、朝日新聞に対して記事の差し止めを命じた。

同年3月、第81**帝国議会**で戦時刑事特別法の審査をめぐる、6月、第82帝国議会で企業整備法案審議をめくりそれぞれ政府原案に反対した。

さらに**近衛文麿**や**東久邇宮稔彦王**を中心とする宮中グループや重臣達を動かして、**松前重義**と共に東條内閣の打倒に動く（松前はこのため報復の懲罰召集を受けた。時に松前43歳）。これは、東條を退陣させて**宇垣一成**か**東郷茂徳**を後任首相に立てようとしたと言われている。

逮捕と自殺

1943年**9月6日**、三田村武夫が警視庁に逮捕。東京憲兵隊は**10月26日**午前6時に中野をはじめとする**東方同志会**（東方会が改称）他3団体の幹部百数十名を検挙した。中野の逮捕は、中野が倒閣工作を謀った事と、ある青年に「日本は負ける」と話したという噂が名目上の理由であったが、憲兵隊によって、中野は自白させられ、議会欠席を約束させられた上で、25日釈放された。

そして同年**10月27日**自宅一階の書斎で割腹自決。隣室には見張りの憲兵2名が休んでいた。自決の理由は不明。自刃する前に中野はムツリーニやヒトラーからもらった額を飾っていたが、それはずし、机上に**楠木正成**の像と『大西郷伝』を置いたと伝えられている。自決の数時間前、四男泰雄に「千里の目を窮めんと欲し更に上の一層の楼」と色紙に書き、憲兵の目の前で渡している。遺書には「俺は日本を見ながら成仏する。悲しんでくださるな」と書き残されていた。

エピソード

- 弟の**中野秀人**は画家、**詩人**・**評論家**、四男の**中野泰雄**は**亜細亜大学**名誉教授である。
- **1926年**に手術ミスで左脚大腿下部切断している。幼年時代の落馬により左足の関節に痛みを覚えるようになったが、学生時代、**柔道**の稽古中に骨折、手術した。後遺症のため成人後に再手術。結果、血栓により足の血管が詰まり壊疽を起こし、左足の切断に至った。
- 中学時代に玄洋社の初代社長**平岡浩太郎**に援助を頼んで仲間と柔道道場を設立するほど柔道を愛好しており、足が不自由ながらその技量も高く、早稲田大学在学中には、史上最強の柔道家といわれ**黒澤明**の監督作品『**姿三四郎**』のモデルの一人とされている**講道館**の**徳三宝**と試合をして勝ったほどである。
- 現在、**福岡市中央区**今川地区の一角に中野の銅像が設置されている。

人物評

緒方竹虎は、「いったん思い込むと、憑かれたようになる」と評し、**清瀬一郎**も「いつも、オードブルだけ食べて、まずいと思えば、すぐに出て行ってしまう」と同様に評した。また、自宅では数人の学生達を起居させ、食事や学費の面倒をみていた。書生の一人、長谷川峻（後の労働相・運輸相）に、庭のスズメの群れを見て「あのスズメに茶碗のご飯粒を分けてやっても大した事は無い、しかしスズメは腹を満たし大空に飛んでゆく。君達もここから思い切り飛びたて」と話した心温まるエピソードが残っている。

関連作品

- 『東條を倒せ 戦時下 幻の倒閣運動 ~ 中野正剛と東方会 ~』（NHK、1984年放送）：中野正剛役・**成田三樹夫**

関連項目

- **東方会**
- **東大陸**
- **進藤一馬**
- **牛嶋徳太郎**
- **学校法人国土館**

外部リンク

- **戦後の右翼と現在** - 牛嶋徳太郎による再建『**東大陸**』誌掲載の戦後の右翼の思想的総括。
- **東方会**

出典: フリー百科事典『**ウィキペディア (Wikipedia)**』_2008年10月14日 (火) 04:04、

